

■瀬戸内海水環境等調査事業 <継続>

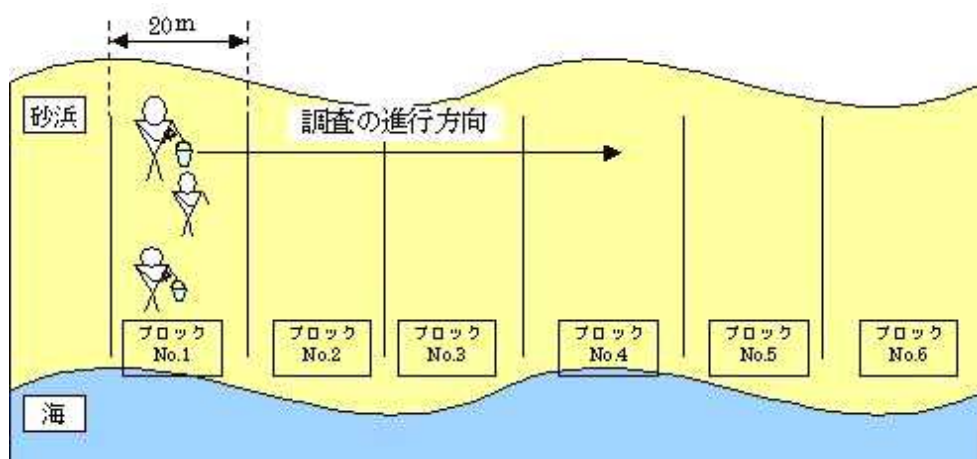
瀬戸内海の水環境については、瀬戸内海海域の水質は一定の改善がみられるものの横ばいで推移しており、その原因として藻場・干潟の減少等、自然界の浄化機能の低下などが挙げられています。

このため、瀬戸内海の浅海域における潮間帯生物の状況や生息環境等といった総合的な環境調査を住民等との協働で行い、データを収集する調査を平成19年度から三カ年で行い、この調査結果を住民等へフィードバックするとともに、住民等が主体となって簡易かつ効率的に実施できるような生物調査方法を提示し、瀬戸内海の保全に対する意識の高揚を図ることとしています。

○ 指標生物の分布を面的に、定量的に把握し、季節変化・年次変化を継続的に調べていきます。平成21年度は「マッピング法」で調査を実施します。

○ マッピング法とは

下の図のとおり、あらかじめ調査対象生物を設定し、ある程度の人数で面的に調査対象生物をカウントする方法で、広範囲を調査することが可能です。また、あらかじめ調査対象生物を設定するため、専門知識が無くても調査を行うことが可能です。また、目視調査のため調査場所の環境を破壊することはありません。



現地調査：廿日市市宮島



現地調査：広島市南区元宇品